



古谷上交差点から川越運動公園に向かう左側に、ポケットパークがあります。整備された送電線の鉄塔の周りで、不思議な形の石を見つけました。取り囲むように並ぶ、サッカーボールくらいの丸い物から、うねったような二メートルを超える物まで。大きなものは、まるで、地表に現れた巨木（鉄塔の根のように見えます。その表面には、赤や青、緑色などで、さまざまな模様や、人、恐竜、鳥、魚などの絵が描かれています。大昔、川越の地で暮らしていた人々や、大地をかつ歩していた恐竜が、絵となって根と共にせり上がってきたようです。周りに並ぶ、渦巻き模様が描かれたサッカーボールくらいの石も、恐竜の卵のように見えてきました。



散歩やジョギングの途中、ここでひと休み。太古の川越を想像してみてもいかがでしょうか。

どんぐり

編集後記

8月19日、石田本郷で一足早い稲刈りが行われると聞き、取材しました。まだ緑が濃い水田の風景に、収穫時期を迎えた黄金色の稲穂が広がります▶おいしい米作りに取り組む「コシヒカリ栽培組合」が発足して、今年で21年。栽培方法が難しいコシヒカリや、早場米などの栽培に取り組んでいます。「稲の収穫が早くできる分、夏野菜の栽培に多くの手間をかけられるんですよ」と、刈り取りの合間に田中久之さん(42歳)が話してくれました。



ゴマ(胡麻)



7月下旬、「ゴマの花が咲いたよ」との知らせに、上老袋の農家に伺いました。種類は、金ゴマ。一メートルほどの茎に、薄紫色の筒状の花が咲き、実の入った二センチメートルほどのさやが、たくさん付いています。中を見ると、四つの部屋に分かれ、一部屋に十五粒ほどの種がきれいに並んでいます。種は乾燥すると、はじけて飛び散ります。その様子から、「開け「マー」という言葉ができたとか。香ばしい「ゴマ」を楽しむのも、もうすぐです。

